

講義コード	14D1020000
講義名称	産業構造論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Japanese Industries Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2605
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
義永　忠一

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
			インテグレーション科目

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 ディスカッション(話し合い)
---------------	--

講義・演習概要	現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。産業構造論Ⅱは、「現在の日本における産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。また産業構造論Ⅱでは、講師への積極的な質問を推奨しています。
学習（到達）目標	講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。講義終了後の積極的な質疑応答を通して、発言する力の養成も学習目標とします。また、講義内容に関する知識定着を確認します。

講義・演習計画

回	内容
第1回	この講義のねらい ・2026年度講義内容紹介（ゲスト講師のご都合により変更の可能性があります） ・テーマ：現在の日本における産業構造の変化（サブテーマを設定する場合があります）
第2回	産業構造とは-現在の日本における産業構造の変化-　課題の設定
第3回	エネルギーの新たな流れ（ガス）
第4回	日本における貿易の現状
第5回	知的財産権-中小企業の挑戦-
第6回	武器製造と日本の産業構造
第7回	情報化の現状について
第8回	外食産業の現状と課題-地域視点からの活動報告-
第9回	タオル製造業経営から見た地場産業の現状
第10回	自動車産業の現状
第11回	観光業におけるホテルの役割
第12回	シンクタンクビジネスから見た日本の課題
第13回	環境に対する視点
第14回	産業構造の変化と成長戦略
第15回	まとめと選択式試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	48%
レポート	
その他	52%

成績評価の方法（コメント）	講義資料は、WebClassを通じて最終課題提示（第15回）の前日まで提示します。
	その他 【52%】 WebClassテストによる課題 WebClassテストによる課題は、第2回～第14回まで講義後に実施する授業内容に関する「選択式の課題」です。 第2回～第14回までの合計13回（合格<60点以上>すれば4ポイント）13✖4＝52
	試 験 【48%】 第15回にWebClassテストによる課題 第2回～第14回までの内容から「選択式の課題」を課します。
	第1回講義内で詳細をお伝えします。

参考文献	その都度指示します。
事前および事後学習の指示	毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	産業構造 エネルギー 貿易 知的財産 中小企業 防衛産業 情報化 外食産業 地域 タオル製造業 地場産業 自動車産業 観光業 ホテル シンクタンク 環境 成長戦略
備考(管理者用)	（旧：産業構造論）02～07E・CBCC生読替☆インテグレーション科目

講義コード	1530120000
講義名称	家族社会学[2]　＜秋＞
科目英文名	Family Sociology
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0S0C2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木下　栄二

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	家族と聞いてどんなイメージを持つだろうか。温かい家庭、父母兄弟、あるいは結婚や恋愛を思い浮かべるかも知れない。しかし、現実は多様である。家庭が温かいとは限らないし、父母兄弟の仲が良いとも限らない。恋愛にしても、ふられた方から見れば、排除の論理である。さらに、家族のあり方は、国によって時代によっても多様である。それでは家族とは何か。この講義では、誰でも知っているが、実はよくわからない「家族」という現象を切り口として、社会について考える家族社会学の基本的な方法について論じてみたい。
学習（到達）目標	家族社会学の基本的な考え方、家族の多様性、歴史、社会とのかかわりについて理解する。そのことを通じて、身近な現象と社会全体の関わりについて考える視点を獲得することが目標である。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション 家族社会学の視座　家族と社会を結ぶ
第2回	歴史に見る家族
第3回	地域ごとに見る家族
第4回	家族の多様性
第5回	親族と地域社会
第6回	家族形態の変化
第7回	家族機能の変化
第8回	家族観・家族イデオロギーの変化
第9回	近代家族論
第10回	結婚と結婚行動①　結婚って何？
第11回	結婚と結婚行動②　配偶者選択過程
第12回	夫婦関係
第13回	子育てと子どもの社会化
第14回	親子関係
第15回	階層と家族

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法 (コメント)	数回の小テストと、最終試験で評価の予定。詳細は最初の授業で説明する。なお出席は原則としてとらない。授業中にうるさい者、ふざけた態度の者は即刻不可とするので、聞きたくないものは出席しないように。
-------------------	--

参考文献	永田夏来・松木洋人、2017、『入門 家族社会学』新泉社 由井秀樹、2017、『少子化社会と妊娠・出産・子育て』北樹出版
事前および事後学習の指示	家族に関わる日々のニュース等に注意すること。配布されたプリントを復習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：家族社会学) 02～18SS・17～18SW・02～07L生読替

講義コード	16D1140000
講義名称	管理会計B　＜秋＞
科目英文名	Manegement Accounting B
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
北田　真紀

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	授業のテーマ ：管理会計に関する基礎知識の習得（2） 授業の概要 ：企業は経営環境の変化に対応しながら、存続・成長するため、常に意思決定を行い最適な経営行動をしています。その判断基準のひとつに会計情報があります。会計情報は企業の経営行動の結果であり定量的に把握することができます。本講義では、この会計情報が経営管理において、どのように活用されているかということを理解するため、管理会計論を学修します。管理会計は、経営者が組織戦略の策定、および資源配分のために意思決定を行ったり、経営活動による業績を評価したりする際に必要となる会計情報を提供することを目的とする会計領域です。講義では、管理会計についてのさまざまなトピックについて、その基礎となる概念と計算手法を学修します。これらの基礎知識を体系的に修得したうえで、会計情報が経営管理において、どのように活用されているかについて、事例をもとに理解を深めます。
学習（到達）目標	【授業の到達目標】 この授業を履修することにより、基本的な管理会計理論について、学修した範囲の計算手続きと理論的な背景を理解することができるようになります。 日常的に企業経営における管理会計の機能と役割について考えることにより、専門知識の定着はもちろんながら、社会に出てから大いに役立つスキル（情報収集力・問題解決力・数理計算能力・論理的思考力など）が身に付きます。 具体的には 1.管理会計理論の学修した範囲について、説明することができるようになります。 ・経営活動における意思決定と管理会計 ・経営戦略と管理会計 ・業績管理と管理会計 ・戦略的コスト・マネジメント ・最近の研究トピックス 2.企業経営における管理会計情報の役割について説明することができるようになります。 3.事例分析をとおして管理会計論についての理解を深め、発展的な議論が展開できるようになります。 管理会計論A・Bを履修することにより、全体として、 ・管理会計理論の学修した範囲について、説明することができるようになる。 ・企業経営における管理会計の役割について説明することができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	【イントロダクション】 【中期利益計画とバランスト・スコアカード①】 経営戦略の計画化プロセス 中期経営計画策定プロセス
第2回	【中期利益計画とバランスト・スコアカード②】 中期利益計画策定プロセス バランスト・スコアカード②

第3回	【事業部制と管理会計①】 組織の分権化について 責任センターと業績評価尺度
第4回	【事業部制と管理会計②】 管理可能性概念・内部振替システム グループ経営の新しい流れ
第5回	【製品開発のための管理会計①】 戦略的コスト・マネジメントとしての原価企画
第6回	【製品開発のための管理会計②】 原価企画の手順・VE・VA 原価企画とバリュー・チェーン
第7回	【生産・物流のための管理会計①】 原価管理システムの体系 原価改善のための2つのシステム
第8回	【生産・物流のための管理会計②】 間接部門の原価改善システム 物流費管理のための管理会計
第9回	【マーケティングのための管理会計①】 マーケティングにかかわる意思決定 製品政策と会計情報
第10回	【マーケティングのための管理会計②】 価格政策・チャネル政策と会計情報 プロモーション・顧客政策と会計情報
第11回	【イノベーションのための管理会計①】 研究活動と開発活動 研究活動のための資源配分と管理
第12回	【イノベーションのための管理会計②】 開発活動のための資源配分と管理 イノベーション時代と管理会計
第13回	【環境経営と管理会計①】 環境経営とは何か 企業の環境経営理念 環境会計システム
第14回	【環境経営と管理会計②】 環境管理会計とは何か 環境管理会計が対象とする環境コスト 環境管理会計の主要手法
第15回	【「管理会計論A・B」の総括】 試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

	中間試験30%、最終試験70%の合計得点より成績評価します。 中間試験：授業内容の理解度・定着度を確認するため、学期中間期に実施します。 最終試験：講義内容の定着度を測るため、全範囲から満遍なく、記述問題、計算問題を出题します。（レポート課題については返却後、フィードバックを行います）
成績評価の方法（コメント）	【成績評価の基準】 成績評価については、授業の到達目標について総合的に評価します。 秀：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、模範的であり、講義の内容を十分に理解している。 優：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を良く理解できている。 良：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を最低限理解できており、良い答案にしようという工夫が見られる。 可：試験内容の理解度、習熟度、論述の書き方ともに、講義内容を最低限理解できている。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	浅田孝幸・頼 誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子 著	管理会計・入門：戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング 第4版	大学オンライン販売	978-4-641-22096-6	有斐閣	

事前および事後学習の指示	第1回：教科書第9章の第1・2節を読む。経営戦略の中期活動への展開について、プログラム・プロジェクト・部門計画についてまとめる。 第2回：教科書第9章の第3・4節を読む。中期利益計画の策定プロセスについて、BSCの特徴、利点、因果関係についてまとめる。 第3回：教科書第11章の第1・2節を読む。組織における分権化のプロセスと分権組織の形態、責任センターと業績評価尺度についてまとめる。 第4回：教科書第11章の第3・4・5節を読む。内部振替システム、組織横断的な調整のための管理会計手法についてまとめる。 第5回：教科書第12章の第1・2節を読む。原価企画の手法、目標原価の設定、目標原価の達成過程についてまとめる。 第6回：教科書第12章の第3・4・5節を読む。VEとは何か、VEのプロセス、原価企画の課題点についてまとめる。 第7回：教科書第13章の第1・2・3節を読む。原価企画・原価維持・原価改善についてまとめる。 第8回：教科書第13章の第4 節を読む。ABC・ABMの復習として教科書第4章を確認することを勧める。物流費の管理におけるABCの効果についてまとめる。 第9回：教科書第14章の第1・2節を読む。マーケティングにおける意思決定について分類・把握したうえで、その意思決定と会計情報の関係について考察しまとめる。 第10回：教科書第14章の第3・4・5節を読む。マーケティングにおける意思決定について、とくに価格政策・チャネル政策・プロモーション政策・顧客政策について理解したうえで、それらと会計情報の関係についてまとめる。 第11回：教科書第15章の第1・2節を読む。研究開発活動における予算管理とそれに基づいた意思決定と予算執行、会計情報の関係についてまとめる。 第12回：教科書第15章の第3・4・5節を読む。研究開発活動における資源配分とその効率化について復習する。イノベーションについても理解を深め、会計情報の関係について説明できるようまとめる。 第13回：環境問題・環境経営とは何か・環境会計の概論についてまとめ直してみると良いでしょう。 第14回：環境管理会計とは何か、環境管理会計の主要手法についてまとめ直してみると良いでしょう。 第15回：企業経営における管理会計の役割 について、業績管理のための管理会計・バリュー・チェーンと管理会計に焦点をおいて復習しましょう。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	会計学・管理会計・原価計算・経営戦略・意思決定・業績評価
備考(管理者用)	(旧：管理会計論) 02～07生読替☆(旧：戦略管理会計) 08～20B生読替

講義コード	1787980000
講義名称	ヨーロッパ文化研究-フランスの言語文化と芸術A　＜秋＞
科目英文名	European Cultures-French Cultural Scene Literature and Art A
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
宮脇　永吏

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	フランスの言語文化および芸術の多様性と革新性を理解し、実際に味わうための授業です。 19世紀半ばから第二次世界大戦前まで、フランスの文化を牽引したさまざまな芸術・文学・思想運動を扱います。科学技術の発達とともに社会が大きく変容するなかで醸成されてきた時代背景を学びながら、新しい手法を発見し、個々の作品における現れを実際に検討していくことで、一つの文化現象を多角的に捉えることができるようになるでしょう。 テーマ毎に取り上げる作品には、絵画・建築・小説・詩・演劇作品等があり、必要に応じて映像による作品鑑賞も行います。 作品の抜粋・映像資料等は日本語訳のあるもの（ない場合には講師による翻訳）を使用します。
学習（到達）目標	・フランスの文化芸術と社会変化との関わりを論理的に説明できる。 ・多様な作品の内容について、単純な「好き・嫌い」や「きれい」といった感想ではなく、知識に基づいた「意見」と「分析力」を持つことができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ノートルダム大聖堂
第3回	ロマン主義文学
第4回	新聞連載小説の時代
第5回	自然主義文学
第6回	自然主義演劇
第7回	エッフェル塔
第8回	印象派の絵画
第9回	これまでの振り返り コメント紹介、コメントへの回答
第10回	象徴主義文学
第11回	象徴主義演劇
第12回	キュビズムの絵画
第13回	シュルレアリスム①：概説
第14回	シュルレアリスム②：作品解説

第15回	まとめ レポートの提出
------	----------------

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎授業後にかならず提出してもらう「振り返りアンケート」（コメントシート）を成績評価の対象（50%）とします。最終レポートの提出（50%）のみでなく、アンケート提出を必須としますので、授業内容に関して積極的に意見を出してください。授業中に、教員からコメント紹介、コメントに対する応答を行います。
---------------	--

参考文献	都度、指示します。
事前および事後学習の指示	授業中に指示された抜粋を読んだり、映像資料を視聴したうえで、「振り返りアンケート」に回答するようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：ヨーロッパ文化研究－フランスの言語文化と芸術）02～10E・08～17L生読替

講義コード	1P66230001
講義名称	スポーツボランティア論<秋>
科目英文名	Sport Volunteer
開講責任部署	
代表ナンバリングコード	000GE119
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
柴田 真裕

授業形態	講義	アクティブラーニング	プレゼンテーション
	グループワーク	実務経験のある教員による授業① 民間企業における実務経験を有する教員がその知見を生かし指導する。	実務経験のある教員による授業② 海外のNPOの運営に関わる教員が今日的な課題や概要等について指導する。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	ディスカッション(話し合い)	プレゼンテーション(発表)
	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)	ディベート(討論、討議)	

到達目標	1.ボランティアの起源や内容について理解することができる。 2.スポーツボランティアの取り組みについて理解することができる。 3.グループワークを通じて、発表、討論する力が身につく。
授業概要	・ボランティアの種類について理解する。 ・スポーツボランティアの必要性を理解する。 ・スポーツボランティア種類と役割についての理解を深める。 ・「支える」側の立場に立って物事を考える。
授業計画	第一回：オリエンテーション（授業の進め方と、評価方法について） 第二回：ボランティアとは（ボランティアの哲学・歴史） 第三回：生涯学習としてのボランティア 第四回：スポーツボランティアとは 第五回：スポーツ指導ボランティア 第六回：海外におけるスポーツボランティア 第七回：イベント運営に関わるボランティア①（世界大会） 第八回：イベント運営に関するボランティア②（市民大会） 第九回：障がい者スポーツにおけるボランティア 第十回：企業が行うスポーツボランティア 第十一回：グループワーク①（企画内容検討） 第十二回：グループワーク②（企画書の作成） 第十三回：グループワーク③（企画内容のppt作成） 第十四回：グループワーク④（企画発表会） 第十五回：授業の振り返りとまとめテスト
教科書	特に指定なし。必要に応じてレジュメを配布します。
参考書	二宮雅也 「スポーツボランティア読本」 悠光堂 2017
評価方法	毎授業の参加態度（30%） グループワークでの成果物（30%） 最終授業の際に実施するまとめテスト（40%） 本科目は、原則として出席回数が全授業回数の3分の2に満たない場合は、不合格となります。